

麹町教会「ミサがわかるセミナー」2023～2024 シリーズ
《年間テーマ》

ミサを通して神を学ぶ ～新しい式次第とともに！

第5回 聖なる神

2024年1月21日 石井祥裕

今回は「聖なる神」がテーマです。「聖なる神」、関連する「聖なる父」「聖性の源」「聖なるもの」「聖とする」「聖徒の交わり」など「聖」の入ることばがミサの式次第にはたくさん出てきます。従来の式文では「神聖な」や「とうとい」という訳語も使われていましたが、新しい式文では概ね「聖」という字を使う表現に統一されています。それだけに今、「聖」とは何かを調べ、考えていくことが大切です。いつものように聖書に尋ね、諸言語の意味合いにも注目しながら、神の聖性に対する理解を試み、わたしたちの祈りを深めていく視点にしたいと思います。

1. 新しい式文の中での「聖なる神」

(※「聖霊」は略、奉献文は第二、第三のみを参照)

栄光の賛歌 「ただひとり聖なるかた、すべてを超える唯一の主、イエス・キリストよ」

ニケア・コンスタンチノーブル信条 「聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会を信じます」

使徒信条 「聖なる普遍の教会、聖徒の交わり」

感謝の賛歌 「聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主」

第二奉献文 「まことに聖なる神、すべての聖性の源である父よ」

「今、聖霊を注ぎ、この供えものを聖なるものとしてください」

第三奉献文 「まことに聖なる父よ、造られたものはすべて、あなたをほめたたえています」

「聖霊の力強い働きにより、すべてにいのちを与え、聖なるものとし」

「聖なる父よ、わたしたちはいま、御子キリストの救いをもたらす受難、復活、昇天を記念し、その再臨を待ち望み、いのちに満ちたこの聖なるいけにえを感謝してささげます」

主の祈り 「み名が聖とされますように」

＋公式祈願、叙唱における 冒頭の神への呼びかけの基本の一つ 「聖なる神よ」「聖なる父よ」

⇒ 賛美・祈願の文脈の中で

神の聖、御子キリストの聖／聖体の聖／教会の聖／すべてのものの聖性など

2. ことばへの注目

◎日本語「聖なる」＝「聖」を「なり活用形容動詞」としたもの

「聖」 漢字のつくり「耳」＋「呈」（音を表す）

「耳がよく通って、神の声を聞くことのできる人」

*「ひじり」＝知恵がすぐれ、万物の道理に通達している人／道の奥義をきわめた人

⇒楽聖、画聖、棋聖、詩聖、聖人/聖学、聖教、聖訓、聖人、聖跡、聖道

*天子（中国の皇帝）に関する語に冠する語

⇒聖王、聖音、聖化、聖業、聖君、聖旨、聖姿、聖詔、聖代

聖書的な「聖なる」に関連深い古語 「かしこ（し）」恐／畏／賢

※「かしこ」＝手紙の末尾 恐惶謹言

◎典礼用語～聖書用語の系譜

【ラテン語】形容詞 サンクトゥス sanctus, sancta, sanctus (聖なる)

動詞 サンクティフィカーレ sanctificare (聖なるものとする／聖とする)

【類語】 サチェル・サクラ・サクルム (sacer sacra sacrum) 礼拝に関すること sacra musica 等

※回心への招き「皆さん、**聖なる**祭儀を行う前に……」(従来「**神聖な**祭りを祝う前に」)

(ad sacra mysteria celebranda) 聖なる神秘を祝うこと

【ギリシア語】形容詞 ハギオス (聖なる) ←動詞ハズマイ (畏れおののく)

→動詞ハギアズマイ (聖なるものとする)

【類語】 ヒエロス・ヒエラ・ヒエロン (神聖な)

【ヘブライ語】 聖なる = 「カドーシュ／カドーシュ」

3. 聖書からの照らし

【旧約聖書】 「聖」 = 「神」 聖であること = 神であること

「聖」であること ⇒ 神が現れることと関係

◎神の現れ、人の召命

*モーセの召命 出エジプト3章

5節「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい」

12節「わたしは必ずあなたと共にいる」

*イザヤの召命 イザヤ6章

3節「彼ら(セラフィム)は互いに呼び交わし、唱えた。『聖なる、聖なる、
聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う』」 (⇒感謝の賛歌)

5節「わたしは言った。『災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者』」

7節「彼 [=セラフィムのひとり] がわたしの口に火を触れさせて言った。

『見よ、これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り去られ、罪は赦された』」

= 神の侵しがたいありさま 恐れおののくべき方、自己の虚無、汚れを感じさせる
他方、人を呼び招く、人とともにいる、罪をゆるす、人にかかわる神のありよう

◎神の民とかかわる神 = 「聖なる方／者」

詩編 89:19 「主は我らの盾。イスラエルの**聖なる方**は我らの王」

サムエル上2:2 「**聖なる方**は主のみ。あなたと並ぶ者はいない」 (⇒栄光の賛歌)

◎求められる神へのかかわり方：畏れ／賛美／信仰／信頼／告白／契約／愛

イザヤ8:13 「万軍の主をのみ、**聖なる方**とせよ。

あなたたちが畏るべき方は主。御前におののくべき方は主。」

詩編71:22 「イスラエルの**聖なる方**よ、わたしは豎琴に合わせてほめ歌をうたいます」

詩編99:3 「御名の大きいこと、畏るべきことを告白せよ。主は**聖なる方**」

◎神の民は「聖なる民」：神の聖性へ招かれ、それにあずかる民

出エジプト19:6

「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちは、
すべての民の間において、わたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。

あなたたちは、わたしにとって、祭司の王国、**聖なる国民**となる」 (申7:6-14参照)

レビ11:45 「わたしは聖なる者であるから、あなたたちも**聖なる者**となりなさい」

レビ20:26 「あなたたちはわたしのものとなり、**聖なる者**となりなさい。主なるわたしは**聖なる者**だからである。わたしはあなたたちをわたしのものとするために諸国の民から区別したのである」

◎聖なる霊

詩編51:12-13 「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください。
御前からわたしを退けず、あなたの**聖なる霊**を取り上げないでください」

◎「聖なる」人・事物：神が選び、定めた、神の民に関するもの

神自身の御名、御腕／聖所：神殿／人物：祭司、レビ人、長男、ナジル人、預言者など
事物：献げ物、祭服、祭具／時：安息日、ヨベルの年など

まとめ：旧約聖書における「聖」

神の「聖」 人が恐れや畏れを覚える、人を超えた存在でありつつ
人（民）とかかわり、招き、選ぶ（聖なる者・聖なる民）にする
人（民）は畏れ敬うことで、それにこたえるべき方
そのために聖なる霊、神の御名、神の聖なる働き（御腕）があり、
そのために「聖なる」人物・事物がある。

新約聖書

◎父である神の聖性

ヨハネ17:11

「聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。」

黙示録4:8 「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、
かつておられ、今おられ、やがて来られる方」（参照イザヤ6:3，感謝の賛歌）

◎イエスの聖性

「神の聖者」：悪霊のことば（マルコ1:24並行、ルカ4:34など）

：ペトロの告白のことば（ヨハネ6:68-69）

「主よ、わたしたちはだれのところに行きましょうか。

あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

あなたこそ**神の聖者**であると、わたしたちは信じ、また知っています」

（参照⇒聖体拝領前の信仰告白の選択形式）

「聖なる正しい方」（使徒言行録 3:14）、「聖なる僕イエス」（使徒言行録 4:27、30）

「聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よも高くされている大祭司
こそ、わたしたちにとって必要な方なのです」（ヘブライ7:26）

◎聖霊の聖（用例多数 箇所略）

◎キリスト者、教会の「聖」（キリスト者の意味での「聖なる者」の用例非常に多数）

ローマ1:7 「神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち」

一コリント1:2 「キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ」

一ペトロ2:9 「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、**聖なる国民**、
神のものとなった民です」（参照出エジプト19:6 上記）

◎キリスト者の生き方：聖なる者となる、聖なる生活をする

一テサロニケ 4:3 「実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです」

一テサロニケ 4:7 「神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせるためです」

ローマ6:22 「あなたがたは、今や罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは永遠の命です」

ローマ12:1 「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」

コロサイ 3:12-13 「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても赦し合いなさい」

一ペトロ2:5 「聖なる祭司となって神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい」

一ペトロ1:15 「召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい。『あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである』と書いてあるからである」（レビ11:44,45参照）

※マタイ 5:48 [敵を愛しなさい] の教え

「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」

※ルカ 6:36 [敵を愛しなさい] の教え

「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」

まとめ：新約聖書における聖

神の聖、キリストの聖は自明の前提

人が神の聖性への招かれているという事実、

その事実のゆえに、その実現を求められている（キリスト者、神の民、人）

「聖なる神」を問いかけていくと、人の聖性への召命がより明らかになる

4. ミサ式次第における「聖」

*神の「聖」：すべてを超えていつつ、人に関わり、人とともにいる方であること

(⇒第2回「天におられ、ともにおられる神」

第3回「いつくしみ深く愛に満ちておられる神」、第4回「全能永遠の神」)

*聖であること→畏れ敬うべきあり方 礼拝の基本的関係

*神の聖性：父である神、御子キリスト、聖霊の聖性はすべての祈願、賛歌の前提・相手

(⇒ 第6回「父と子と聖霊である神」)

*教会とその典礼は、神の聖性への呼び招きを前提として、それを展開する

*「聖なる」の用語がない式次第、式文も、神の聖性、わたしたちの聖性への召命を

前提とし、その関係を表している：「主は皆さんとともに」「またあなたとともに」

5. 聖体について

*神の聖性と人への聖性の招きは「聖体」に集約されてくる

※日本語で「聖体」と訳されることばは「エウカリスティア」（ギリシア語、ラテン語他）

もともとは感謝の祈り、感謝のささげものを意味することば

「聖体」という用語で、神の聖性、聖性への招きと関連づけて考える意義もある

*キリストの奉献と結ばれた生活全体の奉献の集約

聖性への招きに対する応えとしての典礼生活